



HOSHIBA

医療法人社団星秀会

ほしば歯科医院ニュースレター

VOL.40

早いもので、暦の上では立春も過ぎ、もう春です。この冬は、西日本では記録的な大雪が続き、まさに『寒い冬』でした。一方東日本では、日照時間のとても長い『暖かい冬』でした。梅まつりで有名な水戸の偕楽園でも、今年の梅の開花は例年に比べ1ヶ月ほど早いそうです。東南に面した我が家も、日中はとても暖かく、暖房を付けることが少ない冬でした。

しかし、この冬2ヶ月ほど、東京に滞在していた、北陸生まれ、北陸育ちの知人が「東京は、風が冷たく、寒い。」と言っていました。数字的には、明らかに東京の方が気温も高く、風速は遅く暖かいはずなのに……。

人間の五感、その人の育った環境に大きく左右され、数値だけでは判断できない部分があると言われています。感覚は、個々の基準が微妙に異なってくるのです。北陸の『寒い冬』の中では、いろいろな施設の温度設定や、個人の防寒対策も、東京とは違っているでしょう。また、『暖かい東京』という先入観も、感覚に大きく影響を与えた一因と言えるでしょう。

ほしば歯科医院では、常に患者さんを基準に環境作りも考えていますが、温度設定など、適切でしょうか？痛い、苦しいなどの数値では測れない患者さんの感覚を、理解できているでしょうか？

起こるために、歯髄の中の神経が悲鳴をあげて、歯がシクシク、またはズキズキと痛みます。これは、歯髄が活着している証拠です。歯髄は、根の先の穴から歯根膜や骨の中へと続き、歯に受けた刺激に関する情報を脳に伝えています。痛みを感じるのは、虫歯などの進行をキャッチして、歯が「早く治してくれ」と必死で訴えているのです。



でも、その希望をかなえずに放置しておく、やがて歯髄は病原菌の攻撃に負けて、死んでしまうのです。そして、歯髄は腐り、歯髄があった場所は病原菌の巣になります。歯髄は根の先から外へとつながっているため、病原菌はそこから外へ出て、そこでさらに巣を作り始め、根の周りの柔らかい組織や骨を溶かし始めます。この巣は、病原菌と戦った白血球の死骸(膿)や壊された周囲の組織の残骸、病原菌などで満たされていて、何の治療もしないと徐々に大きくなっていきます。こうなると、噛んだときや歯の根のあたりを押すと、痛んだり、膿が出てきたりします。場合によっては、その膿汁が出るのができなくて、根の周りの組織を圧迫・刺激するために、何もなくても激痛が生じるようになります。

痛みは個人の感覚ですが、歯の訴えは、すばやくキャッチして対応したいものですね。



痛みの訴え



虫歯で歯に穴があいたのに、放置して痛みがあるのに我慢我慢。たびたび訪れる激痛も痛み止めなどでごまかし、上手に(?)付き合っているうちに、いつの間にか痛みが無くなってきた。ここで、「これはしめた！治ったんだ」などと安心してはいけません。実はもっと恐ろしいことになっているのです。

虫歯ができてしばらくたつと、虫歯の部分が歯髄に届いて、その中に病原菌が浸入して炎症が



✕ IT化との付き合い ✕

ほしば歯科医院のホームページを開設して1年半になろうとしています。最近、「ホームページをみました」「インターネットで探しました」といった声を大変多く耳にします。より多くの方に、ほしば歯科医院の理念を知っていただきたい、ひとりでも多くの患者さんの訴えにこたえたいと開設したホームページなので、とても有り難い限りです。

時代のIT化は着実に進んでいます。今や、携帯電話でのメールも当たり前の通信手段となっています。

しかし、先日最近携帯電話のメールを仕事でも使うようになったという方から、約束の確認のメールが届きました。「拝啓 厳冬の候、皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。下記の資料を送りますので宜しくご査収ください。」資料を撮った写真まで添付されていました。何か違うな。先方も私も出先ではなかったのに。この用件だったら、携帯電話のメールよりFAXか郵送の方が優れた通信手段ではないかな、と感じるのは私だけでしょうか？

今や通信手段は、手紙、電話、FAX、メールと様々に発展してきました。しかし、最先端が必ずしも最良ではないのです。時と場合を考慮して手段を選択することが大切なのです。

メール文化の発展により、若者が活字離れしていると言われていますが、今、携帯電話の連載小説のサイトが流行っているようです。19歳と20歳の女性が直木賞を受賞したことも話題になりました。また、今中高生の間では、『下手文字』というものが流行っているそうです。『女家』で『嫁』、『タタ』で『多』



『しよ』で『は』、『：令』で『冷』、『'水』で『氷』などなど。ふざけているかもしれませんが、文字を知っていなければできない遊びです。携帯電話のメールを通して、通信手段ではなく新しい遊びを創造してしまったのです。勿論、携帯電話のマナーなど、良しとできない面も多々ありますが、

何かを発見するという意味においては、『若者』の方が、IT化を上手く活用しているのではないかなと思いました。

ITを利用して何かを創造することまでとは言いませんが、少なくとも最先端という言葉にまどわされない、バランス感覚を大切にしたいものです。

ホームページ、インターネット等の導入により、新しい患者さんとの関わりが増えてきた今こそ、生の患者さんの言葉をより一層大切にしたいものです。

ご意見はこちら

発行責任者 干場貴司へのご意見、ご感想、その他何でも受け付けております。どのような方法でも結構ですからお気軽におっしゃってください。

電話 03-3686-4657

ファックス 03-3877-7771

e-mail info@hoshiba.net

http://www.hoshiba.net

(ホームページの方もお気軽に)

後記

今、ライムの

す。かくいう私も『ラストサムライ』に感動したひとりです(笑)。「サムライ」とは武士のことですが、ここでいう「サムライ」は戦いを職業とする者という意味ではなく、むしろその精神構造や人格を指しています。「義」「勇」「仁」「礼」「誠」など日本人の心を律してきたこれらの特徴を今一度大切にしたいと思います。



編集

「サムライ」がブームのよう

お知らせ

3月7日(日)14時から BSジャパン(テレビ東京系 BSデジタル放送)で『噛める生活への道』口腔ケア最前線(仮題)という番組を60分スペシャル枠にてほしば歯科医院が紹介されます。時間のある方は是非、御覧になって下さい。

ほしば歯科医院ニュースレター 第40号
発行日 2004年2月10日発行

〒134-0088 東京都江戸川区西葛西1-13-7
tel. 03-3686-4657 fax. 03-3877-7771

 e-mail. info@hoshiba.net

<http://www.hoshiba.net>